

くしまっ子

攻守の要を担う主将 最後の夏へ情熱燃やす



練習に精を出す山下くん

昨年秋に行われた県中学秋季体育大会南那珂地区予選で優勝し、県大会でベスト16に入った串間中サッカー部を引っ張るのは主将の山下高斗くん。小学3年のとき、福島サッカースポーツ少年団でボールを蹴り始めて以来、サッカー一筋です。

ポジションは中盤のボランチ。ポルトガル語で「舵取り」を意味し、相手の攻撃の目を摘んだり、パスを散らして攻撃の起点となるポジションで、攻守の要を担っています。

一蹴入魂!



やました しゅうと
14. 山下 高斗くん
串間中学校3年。小学3年からサッカーを始める。部員29名のサッカー部の主将としてチームをけん引。2年の冬には県選抜にも選ばれた。好きな選手はブラジル代表のネイマール。

2年の冬には、県の選抜に選ばれ、千葉県で行われた試合に出場しました。「選出されたときはうれしかったです。頑張ってきたよかったです」と山下君。1年のときから県トレセンの練習会に参加して初めて選ばれました。県選抜を経験し、「チームメイトも対戦相手もレベルが高かった」と振り返りながらも、「その中で対等にプレーできたのは自信になった」と手応えを感じています。

現在は、6月の中学生生活最後の大会に向けて練習にも熱が入ります。試合ではチームワークを大事にし、日頃の練習から主将として積極的に声掛けをするなど、周囲との連携を高めています。「サッカーの良さは、点を決めてみんなで喜び合えるところ。最後の大会をみんなで喜びを分かち合えるように悔いなく頑張りたい」と山下君。夏の熱き舞台での活躍を誓います。



市道沿い整備 手作りバラ園1万本鮮やか

亡き妻思い育てたバラ満開

秋山小近くの市道沿い100メートルほどにわたって今年も1万本を超す鮮やかなバラが花開きました。北方地区・東上池の野辺保雄さんが丹精込めて咲かせた花で、3年前にがんと闘う妻・敬子さんを励まそうと育て始めました。敬子さんは花を見る前に他界してしまいましたが、保雄さんは「生まれ育った秋山を少しでも元気にできれば」と花の世話を続けています。

一本抜くなど、毎日のように通い、花の世話に没頭。2016年5月には、市道沿いの花壇に1万本のバラが咲き誇りました。

バラは車から見やすいようにと、つるがはう棚を車の目の高さに設定し、少し傾斜をつけるなど、工夫が施されています。また、訪れた人たちが年中、花を楽しめるようにバラ以外にも芝桜やアジサイ、サルズベリなど四季折々の草花も植え、くつろぎながらゆっくり鑑賞できるように親戚らと手作りのベンチやテーブル、展望台なども設けました。



串間で活躍する人を
紹介します
きらめき図鑑
kirameki

「バラ園が観光名所の一つとして串間に人を呼び込むきっかけになれば」。3シーズン目を迎えた今年、バラ園には約70品種1000株が植栽され、見頃を迎えた5月には、メディアや口コミで知った来場者が市内外から次々と訪れました。「こうやって見に来てくれた人や地元の人が喜んでくれてうれしい。妻も喜んでくれてるはず」と鑑賞を楽しむ来場者を見つめながら微笑む保雄さん。

今年はずいぶん暑かったが「しっかりと手入れしてまた来年の5月にはきれいな花を咲かせたい」と、1年後の美しい風景と訪れる人の笑顔を思い浮かべながら大切に育てています。



のべ やすお
野辺 保雄さん
(北方地区・東上池)
秋山出身。独学でバラ栽培を学び、バラ園のほとんどを手作りで整備した。記録として整備の前後を写真で残している。



ベンチも手作り



自然の中でゆったりとした時間が流れる

地域おこし協力隊

活動日記

vol.14 髪を切った理由について

ふくしま あやの
福島 綾乃さん



失恋じゃないです。以前からヘアドネーション(髪を失った子どもたちのウィッグを作るための髪を提供すること)をしようとして2年ほど伸ばしているのですが、少々切ってもらいました。

さかのぼること2月。市役所公式HP活動報告に掲載する野焼きの取材に行った時のこと。前日も晴天、当日も朝からカラカラに晴れていました。そのため迫力の炎が瞬間に燃え広がりました。「これはシャッターチャンス!!」と思った私は必死に写真を撮っていたのです。

すると…。「おねえちゃん燃えちよー!!」と言われて「え!?!」と思った時にはもう

遅かった…。髪が燃えて粉々になっている。ポニーテールの先が無残にも散っていたのです。バラバラと。ショック!!(現場では爆笑されました)

その後、いろんなトリートメントを取り寄せてなんとかチリチリになった髪がストレートに戻らないかと頑張っていたのですが、努力の甲斐も虚しく、もとに戻るわけもなく。諦めよう。どんなに頑張っても元に戻るはずがない!仕方なく美容室で10cmほど切ってもらおうことに。しようがない。また頑張っって伸びるのを待つことにします。でもまあ、毛先が燃えた程度でよかったです。あのまま写真を撮り続けて

いたらきつとアフロになっていたでしょう。取材時にはいろいろと気をつけようと思いました。



要チェック!
活動の様子を
ご覧いただけます。